

サステナビリティマネジメント

ESG担当役員からのメッセージ

2-9,2-12,2-13,2-14,2-17,2-22



事業活動を通じて環境問題や社会課題を解決し、 全てのステークホルダーに信頼される企業への成長を目指します。

ユニ・チャーム株式会社
上席執行役員 ESG本部長

上田 健次

ユニ・チャームグループは、「持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献すること」をパーパス(存在意義)としています。「事業を通じてSDGsに貢献すること」こそ、私たちの考える「サステナビリティ」です。

この想いをより具体化するべく、2020年10月にユニ・チャームグループ中長期ESG目標「Kyo-sei Life Vision 2030」を発表しました。「Kyo-sei Life Vision 2030」では、「私たちの健康を守る・支える」「社会の健康を守る・支える」「地球の健康を守る・支える」「ユニ・チャーム プリンシプル」という4つの分野で、合計20の重要取り組みテーマ・指標・目標を設定しました。この20のテーマは、気候変動や海洋プラスチックといった環境問題や東アジアをはじめとする成熟国での少子高齢化および新興国における貧困などの社会課題を包括し、SDGsの17の目標と169のターゲットの達成に貢献するように組み立てています。

また、2020年5月に公表した「環境目標2030」では、「プラスチック問題対応」「気候変動対応」「森林破壊に担しない(調達対応)」という3つの課題に対し、2050年のあるべき姿「2050ビジョン」を掲げた上で具体的な目標を設定しました。

「Kyo-sei Life Vision 2030」「環境目標2030」を着実に推進するために、社長執行役員を委員長とするESG委員会におい

て進捗状況の報告や課題等に関して討議し、全社を挙げて取り組んでいます。

2023年度の取り組みについて、いくつかご紹介します。

気候変動問題への対応を加速するべく、2022年度に組成した「GHG(Greenhouse Gas/温室効果ガス)排出量可視化プロジェクト」では、日本で自社生産しているパーソナルケア分野の全商品のCFP(Carbon Footprint of Products)*値をタイムリーに算出できる体制を確立しました。また、脱炭素に取り組む団体等の各種外部機関と連携し、国際標準との整合性を確認しながら信頼性のあるGHG排出量の算定規程を策定し、一般社団法人サステナブル経営推進機構(SuMPPO)のInternal-PCR承認制度による認証を受けることができました。これらの活動を基に2024年度は、ペットケア分野や海外現地法人への横展開を進めるとともに、一部の商品のCFPについて具体的な数字を用いた情報発信を予定しています。

また、「Kyo-sei Life Vision 2030」で掲げた「事業展開に用いる全ての電力に占める再生可能電力の比率を2030年までに100%とする」の進捗は、2023年度実績で22.8%を達成しました。この活動をより着実なものとするため2023年11月に「RE100」へ加盟しました。今後も各法人の実情に応じた最適な

調達方法を検討し、再生可能電力比率100%に向けて着実に推進する予定です。

これらの取り組みを進めることで、当社のさまざまな事業活動に伴うCO₂排出量の削減に努めるとともに、プロダクトライフサイクル全体を通じたCO₂排出量の抑制につながるよう、サプライチェーンに携わる全ての関係者への積極的な働きかけを継続します。

ユニ・チャームグループでは、「Kyo-sei Life Vision 2030」および「環境目標2030」を当社のESGに関連する重点目標として位置づけ、各部門の目標に落とし込み、部門から個人の目標や週単位の行動計画に紐づけるといったきめ細かい活動を行っています。この一環として2023年度より社員の評価指標にESG項目を導入しています。

今後も、これら2つの目標をグループ全員で着実に推進し、事業活動を通じて環境問題や社会課題を解決し、地域社会へ貢献するとともに、ESG関連情報を適切に開示することによって、お客様、株主・投資家、お取引先、社員とその家族、地域社会といった全てのステークホルダーに信頼される企業へと成長することを目指します。

* 商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO₂量に換算して表示する仕組み